

2023年度事業計画(案)
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

はじめに

コロナ禍に続き、異常な物価高騰のなか、だれでも生活困窮に陥る社会状況で、低所得での生活を余儀なくされている子育て世帯や高齢世帯にそのしわ寄せがきています。一方で国内では年間522万トンの食品がまだ食べられるのに廃棄されています。

フードバンク狛江は、「狛江市における食料支援の連携に関する年度協定書」(2023年4月1日付)に基づき、今年度も食品ロス削減と地域での食の分かち合いを呼びかけ、必要とする食の支援を地域で支え合うことで、少しでも市民が食に困ることなく、安心して暮らせるよう、本事業を取り組んでいきます。

2023年度の事業計画は、国や行政の対応等により、不確定要素もありますが、事業別に基本的な方針として提案し、具体的には理事会決定により執行していきます。

1、フードバンク事業

- 狛江市の生活困窮者自立相談支援に、食料提供を継続できる食品の確保に努めます。
- 子育て家庭への食料支援の拡充のために、必要な食品の確保を図ります。
- 非営利で活動する地域の福祉施設・団体に、少しでもその活動の支えとなるよう、ロス食品や未利用食品を活かして食品提供に努めます。またフードバンク活動への理解を広げる活動として進めていきます。
- 市内4カ所の食品寄贈ケース設置場所や、西野川事務所及び市庁舎作業所での品寄贈を増やすために、広報等により食品寄贈を呼びかけます。また食品寄贈ケース設置場所の拡大を図ります。
- イベントでのフードドライブは、以下開催された場合、感染対策をして参加し食品寄贈を呼びかけます。
 - ・6月狛江市環境月間こまエコ祭り／・10月消費生活展くらしフェスタ(開催不明)など。
- 生活協同組合4団体(東都生協、バルシステム東京、コープみらい、生活クラブ生協)と連携を強め、フードドライブが実施される場合の協力や、イベント参加による食品寄贈を呼びかけます。
 - 地域の企業・団体、市民に食品ロス削減を呼びかけ、フードドライブやフードバンクの周知広報、協力を求めています。 <参考>食品ロスの現状 <https://www.maff.go.jp/j/press/shokuhin/recycle/220609.html>
- 全国フードバンク推進協議会斡旋の企業や直接つながっている企業・団体からの寄贈提案に、在庫状況により適切な受入れを図ります。

2、食のセーフティーネット事業

- 福祉相談課、生活困窮者自立相談窓口こま YELL との連携を図り、物価高騰などで予想される食料支援の増加に対応します。
- こま YELL の行う学習支援や子ども政策課のひとり親家庭向け学習支援へのお菓子や飲料の提供は、子どもたちの励ましとなるよう、実施状況に応じて継続します。
- 学校給食のない時期の子育て世帯への食料支援は、子ども政策課と連携したひとり親子育て応援と、学校教育課と連携して就学援助受給世帯に周知し、夏8月・冬12月・春3月に食品提供を実施します。
- お米等、寄贈食品の在庫状況により、食料支援世帯を対象に、適宜「おすそ分けお渡し会」を実施します。
- スクールソーシャルワーカーやコミュニティソーシャルワーカーをはじめ、地域の支援団体との連携関係を強

めていきます。

- 電話や SNS などでの連絡のあった食料支援 SOS には、他都市の場合、該当する地域の行政や支援団体を紹介するとともに、必要と認められる場合、一回のみを基本に緊急食料支援対応をしていきます。

3、フードバンクの普及・啓発事業

- フードバンクを持続可能な活動としていくために、「フードバンク活動でつながる狛江の団体交流会」の継続と地域の食の分かち合いの拡大を目的に、「食の分かち合い推進協議会(仮称)」の設立を目指す
→主要連携団体に「協議会」参加を呼びかける
- 10月食品ロス削減月間に、環境政策課との共催で日本フードエコロジーセンターの見学会や出張講座を企画し、市民に参加を呼びかける。
- 子育て応援で繋がった親子や親同士の交流や困りごと相談を目的とするイベントを検討する。い
- ホームページ、facebook、Twitter などSNSの活用を積極的に行う。また、紙媒体によるニュースレターを年4回発行、チラシの作成・配布や新聞、テレビ、ラジオ、タウン誌による広報に努めます。

4、団体の持続可能性を追求した組織運営と団体基盤の確立について

- 現状の事業規模を維持し、安定した持続可能な団体運営のため、役員報酬や有償スタッフを配置できるよう財政基盤の確立に努めます。また必要な助成金・補助金を獲得していきます。
- 財政基盤の確立のため、連携団体や支援者への会員・賛助会員(個人・団体)の加入促進を図るとともに、地域の企業・商店への訪問活動による賛助と寄付の呼びかけを積極的に行います。
- 西野川事務所/倉庫と市庁舎作業所の活動を役員・事務局スタッフで中心的に担い、ボランティアの計画的な参加とフードバンク活動や食品取り扱いの担い手づくりを進めます。また、ボランティアの募集に取り組みます。
- スタッフとボランティア同士の繋がりを大切に、フードバンク活動をより知ってもらう研修を実施して行きます。
- 理事会・事務局・ボランティアの役割分担をして、団体員相互の協力で効果的な組織運営に努めます。
- 組織運営の課題解決に、理事・事務局スタッフによる専門チームで検討を進めていきます。
- 組織運営に関わる諸規定を整備し、組織基盤の確立を図ります。
- フードバンクを地域の仕組みとして確立するために、関係団体による協議会設置を目指します。
- 近隣フードバンクとの交流と連携を図ります。